

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、法令等を遵守します。
- 2 私たちは、教育公務員としての自覚をもって行動をします。
- 3 私たちは、不祥事の芽を見逃しません。

不祥事根絶のための行動計画

広島県立安古市高等学校

作成責任者 校長 船津久美

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス研修において、通知等の伝達が中心となっている。 ○事例を「他山の石」とする意識が十分ではない。 ○不祥事を個人的な問題と捉えがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワークや演習を取り入れた体験的な研修を実施し、自分にも起こりうると意識するとともに、組織の一員としてできることを考える。 ○グループウェアや朝礼連絡プリントを活用し、情報の見える化、共有化を進める。 ○不断に研究と修養を重ねることを当然とするムードを醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会の企画による研修を実施する。 ○各部、学年会、教科会等小集団での研修を充実させる。 ○個人の振る舞いが及ぼす組織や教育活動への影響を考察したり、不祥事に結びつくヒヤリハット事例の研修をいろいろな場面で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各回で研修の振り返りをする場面を設け、次の研修にフィードバックする。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ミドルアップダウンの要素に欠ける傾向がある。 ○時間を確保した定例的な会議の場が確保できていない。 ○対処的な取組に偏りがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会を年間行事計画に位置付け、定例的に時間を確保する。 ○各所における報告・連絡・相談を徹底し、教職員間のコミュニケーションをとる。 ○平素の未然防止に努めることの重要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会で学期ごとの研修企画担当を決め、職員主導の研修を実施する。 ○業務改善を進め、特定の者に負担がかからないようチームで業務に当たる体制をつくる。 ○報告・連絡・相談の手順や方法を見える化し、情報共有の簡便化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに研修の実施状況を点検し、行動計画の修正を図る。 ○研修の記録を蓄積し、改善を図る。 ○各種内容・レベルに応じた報告書の様式を整える。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○文書複数回配付、掲示、ホームページ掲載、各種会合での周知によっても、相談窓口の認知度は高まらない。 ○生徒や保護者が相談することに抵抗感を持っているように感じられる場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周知の場面を増やし、認知度を高める。 ○教職員全体で相談しやすい学校であることが伝わるよう、平素より生徒・保護者への誠意ある対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談内容や設置の趣旨を明確にし、相談しやすさが伝わる配布物にする。 ○PTA総会、合格者説明会、保護者懇談会等の場を利用して周知を図る。 ○アンケートの質問項目を工夫し、課題や問題が明確に把握できる調査の仕方に改める。 ○生徒や保護者に対して、言葉遣いや態度に留意した対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周知後、相談窓口の認知について調査を行う。 ○学校評価アンケート実施時に併せて相談できるよう項目を工夫する。 ○成績送付時に、受領確認に併せて相談できるよう項目を工夫する。